

- 問1 4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、漢字や儒教、仏教などの大陸文化や、優れた製作技術を伝えた人々を何と呼びますか。 (2021年 鳥根県公立入試 類似)
1. 渡来人 2. 遣隋使 3. 御家人 4. 防人
- 問2 世界文化遺産にも登録されている、大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」について述べた文として、正しいものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. すべて直径10メートル程度の小さな円墳のみで構成された、庶民のための墓地群である。 2. 仏教が伝来した後に、聖徳太子の命令によって各地の寺院の隣に作られたものである。 3. 日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。 4. 東北地方から九州地方にかけての全国各地から、有力な豪族の遺骨を集めて埋葬した場所である。
- 問3 中国の歴史書『宋書』倭国伝には、5世紀に中国の南朝へ相次いで使者を送り、自身の地位を認める称号を求めた「讃・珍・済・興・武」という5人の王が登場します。これらの王を総称して何と呼びますか。 (2025年 埼玉県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 倭の五王 3. ヤマトの大王 4. 渡来人
- 問4 5世紀の朝鮮半島にある伽耶（加羅）地域から大和政権が得ていた資源で、武人の埴輪に見られるような鎧や武器の材料となり、政権の武力強化に大きく貢献した金属は何ですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
1. 金 2. 鉄 3. 青銅 4. 銅
- 問5 紀元1世紀から17世紀までの東アジアにおける日本の対外関係をまとめた年表において、最も古い時期に記される「後漢への朝貢」に関連する問いです。当時の倭の奴国の王が中国の皇帝から授かったとされる、現在の福岡県志賀島で出土した品物はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 「親魏倭王」と刻まれた金印 2. 「日出処天子」と記された国書 3. 「漢委奴国王」と刻まれた金印 4. 勘合貿易で用いられた割符
- 問6 5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆が大規模な土木作業に動員できるようになった。 2. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。 3. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。 4. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。
- 問7 3世紀後半から6世紀にかけて、近畿地方だけでなく九州から東北部までの広い範囲で、同じ「前方後円墳」という形式の古墳が作られた理由として、最も適切なものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から、日本全土を統一するためにこの形状で墓を作るよう命じられたため。 2. ヤマト政権を中心とする政治的な結びつきが、各地の豪族との間に広がったため。 3. 仏教の教えに基づき、円形と方形を組み合わせることで死者の供養になると信じられたため。 4. 稲作の普及により食料が豊富になったため、農作業の休憩所として全国で同じ形が採用されたため。
- 問8 古墳時代中期（5世紀後半）におけるヤマト政権（大和政権）の勢力圏の広がりの説明する記述として、最も正しいものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
1. 関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。 2. 近畿地方を中心に巨大な前方後円墳が作られ始めたことから、この時期にはすでに東北地方まで完全に統一されていたと判断できる。 3. 仏教を政治に取り入れた聖徳太子が、全国に国分寺を建てることで、九州から関東までの地方組織を直接支配していたことがわかる。 4. 『魏志』倭人伝に記された女王の朝貢記録により、中国から認められた政権が全国の地方豪族を完全に服従させていたことがわかる。
- 問9 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」という称号が刻まれた鉄剣が出土した事実は、当時のヤマト政権の支配状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 高知県公立入試 類似)
1. 関東地方の豪族が、中国の皇帝から日本全体の支配権を認められていたこと 2. 近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと 3. 仏教の布教活動を通じて、全国の豪族が精神的に統一されていたこと 4. 律令に基づいた中央集権国家が完成し、全国に役人が派遣されていたこと
- 問10 古墳時代に、大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築造された歴史的な背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。 2. 大陸から伝来した仏教の教えに基づき、故人を盛大に供養することで国家の安寧を祈願するため。 3. 海外からの侵略を監視し、防衛するための軍事的な物見櫓や要塞として機能させるため。 4. 大規模な稲作の普及により余った土地を、洪水から守るための避難場所として整備するため。
- 問11 4世紀ごろから大和政権と密接な関係を築き、朝鮮半島の南西部に位置していた国を何といいますか。この国は、五経博士による儒教の伝達や、日本への仏教伝など、大陸文化を日本へ伝える窓口としての役割を果たしました。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 高句麗 2. 百濟 3. 魏 4. 新羅
- 問12 世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群に含まれ、5世紀頃に築造された日本最大の前方後円墳として知られる、当時のヤマト政権の強大な勢力を象徴する古墳はどれか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
1. 稲荷山古墳 2. 高松塚古墳 3. 箸墓古墳 4. 大仙古墳（伝仁徳天皇陵）
- 問13 5世紀頃に現在の大阪府堺市などに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、当時の社会背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
1. 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。 2. 渡来人がもたらした仏教の教えを広めるための寺院として機能していた。 3. 稲作の豊作を祈るために、特定の支配者を持たない集落の人々が共同で管理する祭祀場であった。 4. 東北地方から九州地方まで、各地域の有力な豪族が中央政権から完全に独立して統治していた。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                   |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 1<br>渡来人                                                                       | 朝鮮半島での動乱などを背景に、優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ渡ってきました。彼らは大和政権に仕え、文字（漢字）の記録や外交、土木技術、金属工芸などの分野で重要な役割を果たし、日本の古代国家形成に大きな影響を与えました。                                                                                                 |
| 問2  | 答え 3<br>日本最大の面積を誇る大仙古墳（大山古墳）など、巨大な前方後円墳が含まれている。                                   | 百舌鳥・古市古墳群は、現在の大阪府堺市、羽曳野市、藤井寺市に広がる古墳群です。4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の王権（ヤマト政権）の王たちの墓として築かれました。                                                                                                                              |
| 問3  | 答え 2<br>倭の五王                                                                      | 5世紀に中国へ使者を送った5人の王は「倭の五王」と呼ばれます。当時の日本（倭国）は、東アジアの国際情勢の中で有利な立場を得るため、中国皇帝を中心とした冊封体制（朝貢外交）に加わり、自らの権威や軍事的な指揮権を証明する称号（官職）を求めて外交を展開しました。                                                                                  |
| 問4  | 答え 2<br>鉄                                                                         | 大和政権は、朝鮮半島の南部に位置する伽耶（加羅）地域から鉄資源を安定的に確保し、それを用いて高度な武器や鎧を製造しました。当時の古墳から出土する武人の埴輪が鎧をまとっていることから、この金属が軍事力の象徴であったことがわかります。これにより、政権は軍事的な優位を築きました。                                                                         |
| 問5  | 答え 3<br>「漢委奴国王」と刻まれた金印                                                            | 紀元1世紀（西暦57年）、倭の奴国の王は中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授けられました。これは、当時の日本の小国が中国の皇帝に朝貢することで、自らの支配の正当性を認めさせようとした初期の事例です。この金印には「漢委奴国王」と刻まれており、江戸時代に志賀島で発見されました。                                                                      |
| 問6  | 答え 3<br>「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。                                    | 巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。                                                                                      |
| 問7  | 答え 2<br>ヤマト政権を中心とする政治的な結びつきが、各地の豪族との間に広がったため。                                     | 特定の形状（前方後円墳）が広まったことは、地方の豪族がヤマト政権の支配体制や同盟関係に組み込まれたことを示しています。古墳の形や規模を共有することで、政権内での身分や序列を明確にする役割もありました。                                                                                                              |
| 問8  | 答え 1<br>関東地方の稲荷山古墳と九州地方の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に共通の王の名が見られることから、支配が九州から関東まで及んでいたと判断できる。 | ヤマト政権の支配範囲が拡大したことを示す考古学的な証拠は、文字が刻まれた金属器の出土です。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣（きんさくめいてつけん）と、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌銘大刀（ぎんぞうがんめいたち）には、ともに「ワカタケル大王」という名が刻まれていました。これは、地方の有力者がヤマト政権の大王に仕えていたことを示しており、当時の政権の勢力が九州から関東まで及んでいた確かな根拠となります。 |
| 問9  | 答え 2<br>近畿地方を中心とする政権の勢力が、関東地方にまで及んでいたこと                                           | 埼玉県の稲荷山古墳から「大王」の名が記された鉄剣が見つかったことや、熊本県の江翁山古墳からも同様の銘文を持つ鉄刀が見つかったことは、ヤマト政権の政治的な影響力が九州から関東までの広い範囲に及んでいたことを証明する重要な資料となっています。これは、各地の有力な豪族がヤマト政権の支配下に組み込まれていった過程を物語っています。                                                |
| 問10 | 答え 1<br>大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。                        | 古墳時代において、巨大な前方後円墳を築くには膨大な年月と膨大な人数の労働力が必要でした。このような大規模な土木工事を行うことができた事実は、その被葬者が広範囲に及ぶ支配権と財力を持っていたことを象徴しています。また、前方後円墳という特定の形式が日本各地に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）を中心とした政治的な連合や身分秩序が各地の豪族との間に形成されていたことを示しています。                    |
| 問11 | 答え 2<br>百済                                                                        | 朝鮮半島の南西部に位置した百済は、半島の主導権争いの中で大和政権と友好関係を深めました。この交流を通じて、漢字、儒教、仏教といった高度な大陸文化が日本に導入され、日本の古代国家の形成に大きな影響を与えました。                                                                                                          |
| 問12 | 答え 4<br>大仙古墳（伝仁徳天皇陵）                                                              | 大阪府にある大仙古墳は、5世紀のヤマト政権の最盛期に築かれた日本最大の古墳です。これほど巨大な墳墓を築造できたことは、当時の政権が朝鮮半島から確保した鉄製工具を用い、大規模な土木作業を指揮できるほどの強大な権力を持っていたことを物語っています。                                                                                        |
| 問13 | 答え 1<br>大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。                                | 近畿地方にある大仙古墳のような巨大な墳墓の築造には、極めて多くの人手と長い年月が必要でした。このような大規模な土木工事が可能であったことは、当時の大王が広い範囲にわたって人々を支配し、動員できるほど強力な権力を持っていたことを示しています。                                                                                          |